



神の木公園

写真部活動通信



Vol. 26

厄介者！？

みなさま、今年もきれいな桜はご覧になれましたでしょうか

桜の季節はあっという間、見頃が終わらぬうちに出かけようと思いつつも、新年度始まってせわしくしているうちにいつの間にか桜が緑色になっている、なんてことが数年続いたことがございました。季節の感覚がずれたり戻ったりする昨今の気象は、もはや季節の変動が風物詩化している奇妙な状況になっていると感じます。季節の変わり目になるとよく風邪を引いていましたが、最近は風邪を引いているんだかないないんだかよくわからない症状が続きます。みなさまは大丈夫でしょうか、元気にお過ごしであれば幸いです。さて余談はこの辺にして、今回の写真部活動通信では、公園にすむ鳥を紹介します。ハト、ムクドリ、メジロ、コゲラなど神の木公園ではよく見られます。しかし、日常的に関心が向く鳥はおそらくカラスではないでしょうか。時として人間に牙を剥く鳥ですが、その生態はいったいどのようなものなのでしょうか？

言わずと知れた厄介者という印象を大半の人がお持ちになるかと思われま。カラスに食べ物をとられた、カラスに後ろから威嚇された、さらに言えばくちばしでつつかれた、など挙げればきりが無いほど出てきますよね。ただ、裏を返せばそれだけヒトとの関りが多い生き物と言えます。たいていの生き物はヒトから逃げたり隠れたりしますが、カラスはヒトをじっと観察し、時には何かしらのコミュニケーションをとろうとします。非常に知能の高い生き物なんです。

カラスの生活リズムは、夜明け前に始まります。まだ日が昇る前にねぐらから飛び立ち、エサを求めて狩場へまっしぐらに向かいます。狩場と言っても街に暮らすカラスたちは、私たちが出すゴミを狙っているため、森や川ではなく、繁華街や商店街などのゴミ捨て場に向かいます。神の木公園にねぐらを構えるカラスたちは朝の出勤がごとく、毎朝みなとみらい方面に向かって飛んでいくようです。朝にゴミ出しをするのが面倒だからと夜に出したりすれば、カラスたちの格好の獲物になります。ゴミを決められた時間帯に出すのにはいろいろな背景があったわけですね。ただ、ちゃんと朝にゴミを出せば被害にあわないかと言うと必ずしもそうではなく、カラスは置いてあるゴミ以外にも、これから置かれるゴミがあるということもわかっています。これからヒトが出すゴミにはエサが入っているかもしれないと記憶しているのです。

カラスはヒトと同じく、嗅覚がそれほど優れてはいません。そのため、視覚を頼りにエサを探します。よく食べ破られたゴミ袋を目にするのは、中を見て確認しないとエサがあるかどうか分からないからなんです。なので、カラスのその特徴を踏まえると、ゴミ袋が見えないようにしてあれば、実は見向きもしません。カラスの被害が絶えず困っている場所ではブルーシートで完全に覆い隠してしまう方法をとっているそうです。もちろんブルーシートの中にゴミ袋を入れる際にはカラスがその様子を見ていないか確認するそうです。そうしないと、ブルーシートの中にゴミ袋を入れたことがわかってしまいますからね。ここまでしないといけない苦労からもわかる通り、カラスとの知恵比べは日々続いております。どちらが相手の裏をかくか頭脳戦は私たちがゴミを出す限り終わらないかもしれません。

今回はここまで、思っていたより長編になってしまいましたので、次回後編を綴ります。最後までお読みいただきありがとうございました。

 緑とコミュニティーグループ 神の木公園
〒221-0011 神奈川県横浜市神奈川区神之木台13
TEL 045-421-7883
WEB <https://midocomi.com/kaminokipark.html>

 
blog X (旧twitter)

 Park娘 かみのきちゃん